令和３年度　学校図書館県内研修会・実施要項

(公社)静岡県私学協会

学校図書館専門部会

部 会 長 飯田瑞穂

１．研修目標

司書・司書教諭及び図書館関係教職員の交流を深め、県内外の研修や相互の情報交換を通して、読書活動の推進はもとより、今日求められている情報センターとしての役割など学校図書館の充実について広く研究・協議する。

新しい学力を身につけるための２１世型授業、探究型学習について、授業、教科及び教員との連携、図書館を学びの基地とする先進事例などについて図書館関係者及び、各教科担当者との協議、研究の機会としたい。

コロナ感染拡大により、オンライン教育、ハイブリッド型教育普及の中で求められる今後の学校図書館のあり方について研修・協議の場としたい。

２．期　　日　　　令和３年１１月１９日（金）

３．会　　場　　　静岡県私学会館　５階大会議室

 〒４２０－０８５３

 　静岡市葵区追手町９－２６

 Ｔｅｌ　０５４－２５４－８２０８

 Ｆａｘ　０５４－２５１－８００２

※今回はコロナ感染拡大を考慮してオンラインによる参加を可能とします。

また、後日録画を視聴することも可能です。

※オンライン希望者および録画視聴希望者には、１１月１５日以降に受信方法などを連絡します。

４．参加人数　　　３０人（予定）

 会場参加者の予定人数です。オンライン希望者はこの人数には入りません。

５．日　　程（案）

９：３０　～　 ９：４５　受　　付

９：４５　～ 　９：５５　開　　会

挨　拶　飯田瑞穂部会長（桐陽高等学校長）

１０：００　～　１１：３０　講演+質疑応答

演題　これから求められる学校図書館

　　　　　　　　～図書館をハブとした探究・授業への関わり、サポート、

図書館スタッフに求められる資質などについて～

**講　師　平野　誠 氏　　中央大学附属中学校・高等学校　司書教諭**

※ 講師勤務校での図書館を使った授業、探究学習について具体的事例に加え、探究型授業を実施する担当者はどうあるべきかなどについてお話いただきます。

１１：３０　～　１２：５５　昼食・休憩

１３：００　～　１４：３０　ワークショップ

1. ネットワーク情報資源の収集・選定・提供を体験しよう

図書の選書と同様に教育活動で有効なフリー（無料）のwebサイトを収集し選定。提供方法としてQRコード付きのwebサイト紹介シートを文書作成やプレゼンテーションソフト等で作成して、厳選された教育用コンテンツを参加者で共有し評価を行う。

1. 新聞記事データベースを利用したNIE

新聞記事データベースを利用した「新聞スクラップ」を文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトで作成して、参加者で「新聞スクラップ」を共有して「まわし読み新聞」を体験

１４：３０　～　１５：００　事務連絡

1. 第４５回私学読書感想文コンクールについて
2. 第２回静岡県私学POPコンクールについて
3. 研修後のレポートについて
4. その他

１５：００ 　閉会

６．持ち物　　　ノートパソコンまたはタブレット　ひとり１台（貸し出しはしておりません）

　　　　　　　　昼食

７．その他　　　県内研修会の要望・質問・意見などにつきましては、

 　　 〒 410-0055 　沼津市高島本町8-52

 　 　 Tel 055-921-0096 Fax 055-921-9844

 　 　E-mail library@toyo-numazu.ac.jp

桐陽高等学校　図書室　浅井みゆき までお願いします。

８．参加申込

 **１１月５日（月）**までに静岡県私学協会ホームページ

**「静岡私学ネット（ｈｔｔｐ：／／ｓｈｉｚｕｏｋａ－ｓｈｉｇａｋｕ.ｎｅｔ）**

 「教職員向け研修会」よりにお申し込みください。

なお、申込期限を過ぎますと自動的にブロックがかかり、申込みできなくなりますので

ご注意ください。

　※当日、昼食の用意はありません。各自での用意をお願いします

※オンライン参加および録画視聴を希望する場合は、参加申込の際、備考欄に「オンライン参加」または「録画視聴」を明記し、併せて受講者の連絡先メールアドレスの記入をお願いします。

１１月１５日以降に、連絡先メールアドレス宛に受信方法及び資料の入手方法をお知らせします。

なお、録画視聴者からの質疑については、後日、詳細をご連絡致します。

※対面参加を希望する場合は、事務局より検査キットを送付しますので、抗体検査の実施をお願いします。

※ワークショップ：1人1台端末が必要となります（ＰＣまたはタブレット）

参加者には、「webサイト紹介シート」や「新聞スクラップ」をオンライン会議システムで全員ではありませんが発表していただきます。

※公立高校の先生

別紙申込用紙に記入の上、ＦＡＸまたはメールにて申し込みください。

なお、申込用紙は（公社）静岡県私学協会ホームページ、「教職員向け研修会」（URL上記記載）からダウンロードすることもできます。

オンライン参加または録画視聴を希望する場合は、申込書の備考欄にその旨と、受講者のメールアドレスを記入して下さい。

　　　申込先　（公社）静岡県私学協会　　担当：長島　松永

mail：matsunaga@shizuoka-shigaku.net

FAX：０５４－２５１－８００２

1. 会場へのアクセスについて

JR静岡駅南口より徒歩15分　日赤静岡病院前

１０．感染症対策について

(1)研修会において新型コロナウイルス感染症の発症者が出た場合に備えて、申込の際、備考欄に緊急連絡先を記入してください（原則個人の電話、スマホ等）。

(2)次の事項に該当する場合は、対面での出席を取りやめてください。

①過去3日間(11月16日以降)において発熱、咳、咽頭痛等の症状がある場合

②過去2週間以内(11月5日以降)に新型コロナウイルス感染症陽性と診断された場合、又はその者との濃厚接触がある場合

③過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域(11月第1週において静岡県が訪問回避に指定している都道府県)への訪問歴がある場合、又その者との濃厚接触がある場合

④過去2週間以内に所属校においてクラスターが発生している場合

(3)会場受付において検温を行い、発熱もしくは軽度であっても咳等の症状がある場合は、参加をお断りする場合があります。

(4)研修会当日に新型コロナウイルス感染症の発症者が出た場合には、速やかに(1)項の緊急連絡先及び所属校に連絡します。

(5)参加者個人の緊急連絡先及び所属校連絡先については、必要に応じて保健所等の公的機関に情報を提供することがあり得ます。

(6)会場は、可能な範囲で座席の間隔を空け、換気に注意しながら実施します。

(7)参加にあたっては、原則として不織布マスクの着用をお願いします。

【参照：中央大学附属中学校高等学校の紹介及び研修目的について】

講師勤務校は、明治42年創立され、100年を超える長い歴史を持つ中高一貫教育の進学校である。中央大学の学風『質実剛健』を基盤に、「明るく、強く、正しく」の校訓のもと、知育・徳育・体育の３つをバランス良くカリキュラムに取り入れた教育活動を展開している。高い知性と豊かな感性を持った社会で活躍できる人材育成を目標に掲げている。また、研究者育成を意識した学びを展開しており、卒業までに100冊の課題図書読破は伝統の１つとなっている。さらに、自分でテーマを設定し、10000文字の卒業論文を文系の生徒は作成し、理系の生徒は中央大学理工学部との連携の中で卒業研究を行っている。こうした活動の中で、論文執筆や研究の進め方などを学び、将来の可能性を広げている。こうした活動は、独立型の図書館が主体となって進めている。図書館を使った授業は年間約800時間、コロナ禍による臨時休校があった2020年も500時間である。これほど授業で使われる図書館になったカギは20年前から取り組んできたICT環境の整備にあるという。それだけではなく蔵書は約18万7000冊、約5500本の視聴覚資料もある。さらに、建物としては独立型３階建てあり、閲覧席計300席を有している。さらに１クラスの授業が可能な分館もあり、恵まれた環境である。なぜこれほどまでに図書館の活用が盛んなのか。そのことについては今回の研修の講師である司書教諭、平野誠先生が、新聞などの取材で答えているので、詳細は下記から検索して読んでいただきたい。今後、図書館は今までの図書館という枠組みを超えた知的空間、教科と教科、知識と生徒を繋ぐハブ的な役割を果たしていくことが求められるはずである。こうした図書館を運営されているのが司書教諭の平野誠先生である。こうした取り組みはすでに40年以上の歴史と実績を持っており、図書館が授業に関わり教育活動を支える事例としては全国屈指である。

そうしたことを実践されている講師から午前中に講演いただき、さらに午後に実施する参加者参加型のワーク演習を行う。今回はコロナ感染を考慮し、私学会館にて開催するがオンライン配信も同時に実施し、自校での参加も可能である。一人でも多くの方に参加いただき、今後求められる新しい図書館のあり方、図書館スタッフとして必要となる資質などについて何かしらのヒントを持って頂きたい。この研修によって現在学校図書館が現場で抱えている課題への答え、ヒントとなることは間違いのなく、高い知見を得ることができると考えている。さらに、図書館担当者だけではなく多くの教科担当者にも参加していたければと思っている。参加された多くの教科担当者との情報交換及び協働によって、図書館と教科、授業の距離を縮めるチーム、組織作りのヒントを得ることができると期待している。

★教育家庭新聞　健康・環境・体験学習号　2021年9月20号掲載、同Web版にも掲載

https://www.kknews.co.jp/post\_library/20210920\_2b

https://www.kknews.co.jp/post\_library/20210920\_3b

★東洋経済オンライン　6/5に掲載

https://toyokeizai.net/articles/-/431893

「学校図書館」に関する記事としては、

5/17掲載　https://toyokeizai.net/articles/-/427567

★勉誠出版社『変化する社会とともに歩む学校図書館』のコラム掲載

https://bensei.jp/index.php?main\_page=product\_info&products\_id=101208

野口武悟先生（専修大）執筆の本

中央大学附属中学校・高等学校ホームページ

Chu-fu Online「授業でにぎわう学校図書館」

https://www.hs.chuo-u.ac.jp/online/library/

図書館紹介

https://www.hs.chuo-u.ac.jp/school/sc-campus/sc-library/

図書館（本館）1階　360度パノラマビュー

https://theta360.com/s/qbB58PT11cJVmFpxGktU2vIyO

図書館（本館）2階　360度パノラマビュー

https://theta360.com/s/sQiZGKEEUhfhZi3qUfTXMJG2S

図書館（分館）　360度パノラマビュー

https://theta360.com/s/bm4JOp2ZxjzvmfWtrBsvNhAo4

CiNii Articles 著者 - 平野 誠（ID:9000018819596）

＜文部科学省＞

学校図書館事例集

https://www.mext.go.jp/content/000008050\_048.pdf

掲載元のwebサイトは以下となります。

図書館実践事例集（学校図書館）

https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/dokusho/link/mext\_00768.html

＜東京都立図書館＞

「都立中央図書館で学ぶ！はじめてのレポート・論文作成ガイド」←制作協力

https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/support\_school/research/for\_study/index.html

https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/support\_school/uploads/guide.pdf

＜読売新聞＞

2018.11.03 図書館でＩＣＴ活用授業　中高生ら記事ＤＢ検索も 東京朝刊 教育Ａ 16頁

2013.12.25 学校図書館げんきフォーラム　＠東京学芸大　司書教諭　デジタル時代＝特集 東京朝刊 朝特Ｄ 27頁

2010.02.10 ［教育ルネサンス］楽しい図書館（６）「検索」充実　広がる関心（連載） 東京朝刊 教育セ 19頁

ヨミダス歴史館 >ご利用の現場から

https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/casestudy/

https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/casestudy/interview07/#interv07

＜教育新聞＞

2019年4月22日　新学習指導要領の全面実施まで1年 学校図書館を積極的に活用するための課題と提言

https://www.kyobun.co.jp/feature1/pf20190422\_02/

2016年4月25日　魅力ある学校図書館づくり 実践を紹介 part1【学校図書館特集】授業で大いににぎわう／学習ニーズに基づき収集

教材研究にも有用な資料類／中央大学附属中学校・高等学校

https://www.kyobun.co.jp/feature1/pf20160425\_05/

＜教育家庭新聞＞

2020年6月15日　タブレットＰＣ等を活用し、電子書籍を積極的に活用していきたいです。生徒が電子書籍に慣れるための導入として、どのような活動が取り組みやすいでしょうか。

https://www.kknews.co.jp/post\_library/20200615\_8a

2018年9月17日　情報教育の要として学びの環境を整える＜第41回 全国学校図書館研究大会 富山・高岡大会レポート＞

https://www.kknews.co.jp/post\_library/20180917\_2

2018年9月17日　シンポジウム　ＡＩ社会における学校図書館【報告】

https://www.kknews.co.jp/post\_library/20180917\_2a

2014年7月21日　学校図書館訪問記(1)中央大学附属中学校・高等学校編（東京・小金井市）

https://www.kknews.co.jp/post\_library/20140721\_7a

＜図書館総合展／電子書籍＞

2016年11月09日　「ＬｉｂｒａｒｉＥ（ライブラリエ）はこう使う」→登壇3人目（最後）

https://2019.libraryfair.jp/forum/2016/4761

https://www.youtube.com/watch?v=KX0uQhu7-h0&t=2s